

ティーチング・ステートメント

所属：全学共通教育部
名前：苫米地 伸泰
作成日：2023年3月13日

【責任】

《卒論》

- ・2023年度のみ未来デザイン学部人間社会学科・健康スポーツ専攻の学生1名の卒論指導を担当。

《授業》

- ・1年生を対象とした授業である人間の理解 I (健康と運動) や体育実技を担当。
- ・2022年度のみ、未来デザイン学部人間社会学科・健康スポーツ専攻の健康教育学を担当。

《その他》

硬式野球部とラクロス部のトレーニング指導を担当。

【理念】

《理念1》

高等教育機関である大学において質の高い教育をするためには、教員自身の研究活動が不可欠。

《理念2》

学生の情報リテラシーや論理的思考力の形成に寄与する教育の展開。

【方針・方法】

《方針1》

卒論指導においては、英文論文として掲載出来るレベルの研究の実施を目指す。

《方針2》

学生が自身の卒論に関するどんな質問にも回答出来るよう指導する。

〈方法1〉

教員自身が論文執筆をし、研究成果を発信し続ける。

〈方法2〉

卒論のテーマは教員が与えるが、学生が受け身にならないよう、卒論に取り組む意義、卒論のテーマ選定の理由を先行研究等のデータも含めて説明する。

〈方法3〉

研究に不慣れな学生に対し最初から「自主性」や「主体性」を求めるのではなく、2-3カ月は論文検索法や論文の読み方など初歩的な面から指導する。

《方針 2》

科学的根拠の羅列ではなく、最近のトレンドも加味した授業を展開する。

《方針 3》

学生が自身の身体に新たな気づきを得られるような双方向の授業を展開する。

〈方法 3〉

最近 SNS で話題になっている運動・トレーニング、ダイエット、栄養などの情報の真偽を最新の科学的根拠を基に解説する(特定の人物の批判にならないよう注意)。

〈方法 4〉

簡易的な体力測定や実技を含めた授業を展開する。

【成果・評価】

- ・ 卒論指導においては、担当学生が少しずつ英文論文を読みこなせるようになってきている(卒論担当学生は現在3年生のため成果が出るのは来年度)。
- ・ 2022年度のみ担当した健康教育学の受講学生(ラクロス部)がトレーニングに興味を持ち、トレーニング指導を依頼してきた。

【目標】

- ・ 2023年12月に卒論を指導している学生に学会発表を経験させる(最終的には英文論文化)。
- ・ 2023年度から対面授業が始まる人間の理解 I (健康と運動)においても、科学的根拠の羅列ではなく、最近のトレンドも加味した授業の展開や、簡単な体力測定も含めた双方向の授業を展開する。